

資生堂、象印マホービン、富士フィルムほか日本を代表する企業7社がデザイナーの清水久和とともに「次のデザイン」を発信

—「愛のコンティニュアスデザイン」展、六本木のアクシスギャラリーで今秋開催



Photos: MICHINORI AOKI

日本を代表する企業7社（資生堂、象印マホービン、富士フィルム、天童木工、コトブキ、ノリタケ、コクヨ）とデザイナーの清水久和による展覧会「愛のコンティニュアスデザイン」を開催いたします。

「オリーブのリーゼント」（瀬戸内国際芸術祭2013）など数々のデザインワークで注目を集める清水が、デジタル化時代のデザイン手法「コンティニュアスデザイン」を用いて各社とコラボレーション。完成したコンセプトモデルを一堂に展示するとともに、各企業の取り組みも紹介いたします。日本のものづくりを最新のデジタルデザインで刷新する意欲的な試みにご注目ください。

展覧会概要

名称：愛のコンティニュアスデザイン展

会期：2015年10月31日（土）～11月8日（日）

会場：アクシスギャラリー（東京都港区 六本木5-17-1）

主催：アクシスギャラリー、S&O DESIGN株式会社

参加企業：株式会社資生堂、象印マホービン株式会社、富士フィルム株式会社、株式会社天童木工、株式会社コトブキ、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、コクヨ株式会社（掲載順）

プロダクトデザイン：清水久和（S&O DESIGN）

企画：岡田栄造（S&O DESIGN）、谷口真佐子（AXIS）

Web: www.sandodesign.com

展示作品



資生堂

ホワイトローズナチュラル

1916年に創部され、来年には100周年を迎える資生堂の意匠部。その歴史を象徴するロングセラーデザインとなっている香水「ホワイトローズナチュラル」のボトルをデザインした。商品名でもある白薔薇を表現する要素として、花ではなく棘に着目。若い薔薇の柔らかく透明感のある棘をモチーフとすることで、これまでの清々しく幻想的なイメージを踏襲しつつ、そこに芯の通った性格を与えた。デザインに合わせて新たな香りを試作することとなり、資生堂のチーフパフューマー、堀田龍志の手により、棘のイメージが加わった香りが生み出された。

展示作品



象印マホービン 魔法瓶

高い品質で世界的に知られる象印の魔法瓶。その品質を生かす新しい使い勝手と、生活空間における存在感の刷新を目指したデザインである。注ぐ際の手首への負担を減らすためにあらかじめ傾いた形状にしつつ、必要な要件をハンドルのない一体の造形にまとめることで、抽象彫刻のような存在感を与えた。モデル(ゴールドおよびシルバー)の完成後、魔法瓶の原点であるガラス製の中瓶をボトルシップのように見せる透明バージョンの企画が立ち上がり、本展にあわせ新たなコンセプトモデルを制作した。

展示作品



富士フイルム チェキ

インスタントカメラの楽しみ方を再定義し、新たな写真文化を創出したチェキのコンセプトデザイン。世界中の若者たちのファッションアイテムとなっている状況に触発され、ファッションにおける定番のアイコンと言えるスタッズを取り入れることとした。一見すると手に持つことを戸惑わせる外観でありながら、どこを持ってもしっかりとつかめ、同時にスタッズが本体を守るクッションになり、シャッターボタンなども兼ねる、必然性を伴ったデザインとなっている。製品化を仮定し、富士フイルムデザインセンターがパッケージをデザインした。



清水久和（しみずひさかず）

S&O DESIGN 株式会社代表。桑沢デザイン研究所非常勤講師。キャノンのデジタルカメラ「IXY Digital」のチーフデザイナーとして同シリーズを世界シェアNo.1に導き、ドイツiF賞やグッドデザイン賞（Gマーク）を多数受賞。近年は限定生産の作品も手がけており、代表作の「鏡の髪型」シリーズがパリのギャラリー「Galerie DOWNTOWN」を通し販売されているほか、瀬戸内国際芸術祭2013に出品した「オリーブのリーゼント」が人気を集めるなど、多彩な活動が注目されている。



「Canon IXY DIGITAL 600」(2005年)



「オリーブのリーゼント」(2013年)



「フルーツ・テーブル・ランプ」(2011年)



「雲の上のライター」(2013年)



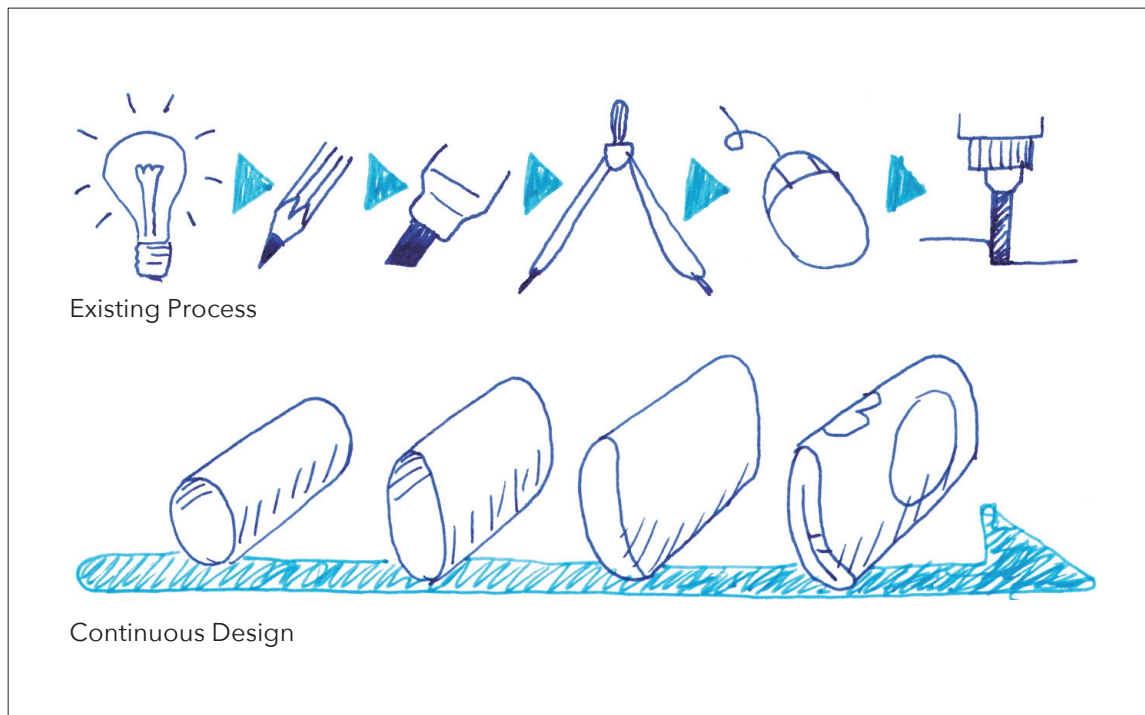
「スイカの時計」(2011年)



「FUMI」(2015年)

「コンティニュアスデザイン」について

コンティニュアスデザインは清水久和が開発したデジタルデザイン手法である。3Dソフトの Alias® を独自の設定のもと活用し、球や筒などの基本形状を自在に変形させながらデザインを行う。発想段階から一貫して3Dソフトを使用するため、デザインの検討により多くの時間を割くことができ、製品としても無理のない形状をスピーディに作り上げることができる。



コンティニュアスデザインのプロセス



コンティニュアスデザインの3Dモデルと実製品

展示コンセプト

デザインへの取り組みが評価されている日本企業7社とアクシスギャラリー、S&O DESIGNによる“次のデザイン”を模索する展覧会を開催いたします。

デジタル化が進む製品開発の現場では、プロセスの全段階に互換性のある3Dモデルが用いられるようになってきました。デザイナーにより生成された3Dモデルがスマート工場で自動的に製造される時代も近づいています。

工業のデジタル化と自動化は製造コストを極小化する手段として期待されていますが、その可能性はコストダウンのみに止まるものではありません。ユーザーのニーズに敏感なデザイナーと技術シーズを生み育てるエンジニアがデジタルモデルを介して密度の高い対話を行うことで、技術と感性が限りなく融合した製品を生み出すことができるようになります。

デザイナーの清水久和が提唱しているコンティニュアスデザインは、新しい時代のものづくりの利点を最大限に生かすべく開発されたデザイン手法です。デジタル加工機との親和性が高い3Dソフトをデザインの初期段階から一貫して活用することで、デザイナーの発想を細部に至るまで損ねることなく、製品として実現。1つの3Dモデルに対してさまざまな検討を加えられるため、製品の開発プロセスで生じる課題にも柔軟に対応できます。

「愛のコンティニュアスデザイン」プロジェクトは、企業のデザイナーが清水とともに自社製品をコンティニュアスデザインの方法で開発する試みとして2014年1月にスタートしました。2014年11月からはデザイン誌AXISで連載がスタートし、以来、企業と清水とのコラボレーションの成果が、開発のプロセスとともに毎号発表されています。

連載開始から1年、これまで誌上のみで発表されたプロトタイプの実物を初めて公開する機会として、本展は企画されました。コンティニュアスデザインによって実現した作品を、制作プロセスと合わせて展示いたします。

日本を代表する企業が一堂に会して“次のデザイン”を発信する機会にご注目ください。

アクシスギャラリー
S&O DESIGN 株式会社